

の馬沙亦黒が、華夷譯語の編纂に關係するに至つたものと思はれる。

三

元朝秘史の翻譯を、洪武十五年に於ける馬沙亦黒の關係した事業であつたとする那珂博士の論斷(成吉思汗實錄序論八〇―八一)に對しては、自分は遺憾ながら同意を表する程の勇氣はない、故金井保三氏は「元朝秘史漢譯の年代」なる一篇を東洋學報に公にし(第一卷、第二號六七一―七四) ついで同補考をも草して(同上、第三號、四二一―四三二)、此の翻譯が既に元代に行はれたものであることを主張し、那珂博士の所論に反對せられたが、更に稻葉岩吉氏は金井氏の説を難じて、「那珂博士の明譯説に従はざるを得ず」と論じられた(同上、四一―四一六)、兩氏の論述は勿論秘史漢譯の年代に關したものであつて、馬沙亦黒のことを主眼としたものではなかつたが、それにしても金井氏は精細に關係史料を調べて、その補考の終には、「馬懿赤黒は即ち馬沙亦黒なりとすれば、那珂氏は蒙古人にてもあるかの如くいはれたれども、明史に明かに回回の馬沙亦黒とありて、且つ其藝文志に、回回曆三卷の著あるを記せり」と述べ、那珂博士が「蒙古人にてもあるかの如く」ではなく、「馬懿赤黒又は馬沙亦黒の蒙古人なることはその名にて知らる」(成吉思汗實錄序論八一)と斷じ、稻葉氏も「馬沙亦黒等は固より蒙古人にてあれば」(東洋學報第一卷四一一)と斷じて掛られたのを否定し去られたのは、此の人の傳を捜るものには見逃すことの出来ないことである。

因みに記して置くが、佛蘭西のペリオ教授は、Le titre mongol du Yuan tch'ao pi che なる短篇を通報(Janv. 1913)誌上に載せ、その初めに漢譯秘史について Transcription et traduction datent du XIVe Siècle といふ